

空家空地等対策に係る技術的援助等実施要綱

平成 28 年 4 月 1 日 住宅都市局長 決定
令和 5 年 4 月 1 日 建築住宅局長 改正
令和 6 年 6 月 1 日 建築住宅局長 最終改正

第 1 章 総則

(趣旨)

第 1 条 この要綱は、神戸市空家空地対策の推進に関する条例(平成 28 年 6 月条例第 3 号。以下「条例」という。)第 19 条に規定する技術的援助等の実施について必要な事項を定めるものとする。

なお、要綱第 3 章から第 7 章及び第 9 章の補助金の交付については、地方自治法(昭和 22 年法律第 67 号)、地方自治法施行令(昭和 22 年政令第 16 号)、神戸市補助金等の交付に関する規則(平成 27 年 3 月規則第 38 号)の定めによるほか、この要綱の定めるところによる。

(定義)

第 2 条 この要綱において使用する用語の定義は、空家等対策の推進に関する特別措置法(平成 26 年法律第 127 号。以下「法」という。)及び条例において使用する用語の例によるほか、次の各号に規定するところによる。

(1) 所有者等

法第 5 条、条例第 3 条に規定する所有者等及び相続等により所有者となる者、他の所有者から同意等を得た代表の所有者、当該建築物について裁判所から選任を受けた財産管理人又は所有者が不在等で民事執行法(昭和 54 年法律第 4 号)第 171 条に規定する代替執行の決定を得た者をいう。

(2) 申請者等

第 2 章から第 7 章及び第 9 章に規定する制度の申請者及び同申請に関して交付決定を受けた者をいう。

(3) 地域団体

神戸市民による地域活動の推進に関する条例(平成 16 年 3 月条例第 58 号)第 2 条第 1 項第 2 号に規定する地域組織その他市長が認める者をいう。

(4) 勧告相当管理不全空家等

そのまま放置すれば特定空家等になるおそれ大きいと市が認めた管理不全空家等をいう。

(5) 勧告相当特定空家等

特定空家等の判断基準等（平成 28 年 2 月 29 日制定）に規定する勧告又は命令相当の特定空家等をいう。

(6) 勧告相当管理不全類似空家等

そのまま放置すれば特定類似空家等になるおそれが大きいと市が認めた管理不全類似空家等をいう。

(7) 勧告相当特定類似空家等

特定類似空家等の判断基準(平成 28 年 8 月 1 日制定)に規定する勧告又は命令相当の特定類似空家等をいう。

(8) 勧告相当管理不全空地等

そのまま放置すれば特定空地等になるおそれが大きいと市が認めた管理不全空地等をいう。

(9) 勧告相当特定空地等

特定空地等の判断基準(平成 28 年 8 月 1 日制定)に規定する勧告又は命令相当の特定空地等をいう。

(10) 勧告等

法第 13 条第 1 項の指導若しくは法第 13 条第 2 項の勧告、法第 22 条第 1 項の助言、指導若しくは法第 22 条第 2 項の勧告、条例第 10 条第 1 項の指導若しくは条例第 10 条第 2 項の勧告又は条例第 11 条第 1 項の助言、指導若しくは条例第 11 条第 2 項の勧告をいう。

(11) 専門家派遣制度

勧告等に従って、土地所有者等及び建物所有者等が措置をとる場合、建築士、宅地建物取引士、弁護士、司法書士および土地家屋調査士等（以下「専門家」という。）の相談を受けることができる制度をいう。なお、この際、当該特定空家等又は当該特定類似空家等が存する土地の所有者等も同様に専門家の相談を受けることができるものとする。

(12) 相続人調査等補助制度

勧告等に従って、建物所有者等が当該勧告相当特定空家等又は当該勧告相当特定類似空家等を解体除却するため、相続人調査、相続人の権利調整又は共有名義でその名義人の一部の所在が不明な場合の調査等（以下「相続人調査等」という。）を行う場合に、これらに要する経費の一部について補助を受けることができる制度をいう。

(13) 剪定伐採等補助制度

勧告等に従って、土地所有者等及び建物所有者等又は当該勧告相当管理不全空家等、当該勧告相当管理不全類似空家等、勧告相当特定空家等若しくは勧告相当特定類似空家等が存する土地の所有者等又は所有者等の了解を得た地域団体や近隣住民が、当該勧告相当管理不全空家等、当該勧告相当管理不全類似空家等、当該勧告相当管理不全空地等、当該勧告相当特定空家等、当該勧告相当特定類似空家等又は当該勧

告相当特定空地等の立木竹の剪定若しくは伐採又は雑草の除去（以下「剪定伐採等」という。）を行う場合に、これらに要する経費の一部について補助を受けることができる制度をいう。

(14) 応急的危険回避措置補助制度

勧告等に従って、建物所有者等が当該勧告相当管理不全空家等、当該勧告相当管理不全類似空家等、当該勧告相当特定空家等又は当該勧告相当特定類似空家等の保安上危険な箇所の応急的危険回避措置を行う場合に、これらに要する経費の一部について補助を受けることができる制度をいう。

(15) 解体除却等補助制度

勧告等に従って、建物所有者等が当該勧告相当特定空家等又は当該勧告相当特定類似空家等を解体除却する場合等に、これらに要する経費の一部について補助を受けることができる制度をいう。

(16) 土地所有者等補助制度

建物所有者等を確認することができない勧告相当特定空家等又は勧告相当特定類似空家等が存する土地の所有者等が、当該勧告相当特定空家等又は当該勧告相当特定類似空家等を解体除却するために財産管理人選任申立及び明け渡し請求訴訟等（以下「財産管理人選任申立等」という。）を行う場合に、これらに要する経費の一部について補助を受けることができる制度をいう。

(17) 剪定伐採等補助制度（越境型）

管理不全空家等、管理不全類似空家等、管理不全空地等、特定空家等、特定類似空家等又は特定空地等のうち、所有者等を確認できない等の理由により法第 13 条第 1 項の指導、法第 22 条第 1 項の助言若しくは指導、条例第 10 条第 1 項の指導又は条例第 11 条第 1 項の助言若しくは指導を行うことができないものについて、隣接土地所有者が越境部分の立竹木（当該土地から越境している部分の隣接土地からの高さが概ね 5 メートルを超えるものに限る。）の枝を切り取る場合に、これらに要する経費の一部について補助を受けることができる制度をいう。

（共通要件）

第 3 条 第 2 章から第 8 章における補助制度の申請について、次の各号の規定を共通の要件とする。

- (1) 申請者等の所得（補助金の交付を受けようとする者の前年の各種所得控除前の所得税課税所得金額（前年の金額が確定していない場合は、前々年の金額によるものとする。）とする。）が 900 万円以下であること。（第 5 条の申請者等、第 22 条第 3 項及び第 4 項の近隣住民並びに第 81 条の隣接土地所有者が申請者等となる場合を除く。）
- (2) 申請者等、寄附申出者及び申請者等と当該補助事業等に関する契約等を締結する者

は、暴力団員による不当な行為の防止等に関する法律（平成3年法律第77号）第2条第1項第2号に規定する暴力団、第6号に規定する暴力団員又は暴力団若しくは暴力団員と密接な関係を有する者でないこと。

- (3) 申請者等は法人でないこと。（マンションの管理の適正化の推進に関する法律（平成12年法律第149号）第2条第3項に基づく管理組合が申請者等となる場合又は第4章で規定する地域団体若しくは第81条の隣接土地所有者が申請者等となる場合を除く。）
- (4) 申請者等は、同様の他の公的補助制度を利用していない又は利用しようとしていないこと。（第2章を除く。）
- (5) 法第22条第3項又は条例第14条第1項に基づく措置命令を受けた者でないこと。

（申請者等及び所有者等の責務）

第4条 申請者等は、各補助制度の申請にあたり関係する法令等を遵守し、補助金の交付の目的に従って補助事業等を誠実に遂行しなければならない。

2 各補助制度の利用後においても、所有者等は当該建物又は土地について適正に管理しなければならない。

第2章 専門家派遣制度（第2条第1項第8号関係）

（申請者等の要件）

第5条 申請者等は、勧告等を受けた土地所有者等及び建物所有者等で、当該勧告等に従って、その措置をとる意思のある者及び当該特定空家等又は当該特定類似空家等が存する土地の所有者等で、第3条に規定する要件に該当する者とする。

（利用の範囲）

第6条 申請者等が自ら管理不全空家等、管理不全類似空家等、管理不全空地等、特定空家等、特定類似空家等又は特定空地等の是正を図る場合に、障害となっている課題に対応した専門家に相談を受けることができる。

2 市長が専門家による相談の必要があると認めた場合は、専門家による相談にかかる経費について原則2回まで市が負担するものとする。

3 専門家による相談において、市長が特に必要と認めた場合は、市負担による相談回数を増加することができる。

（申請手続き）

第7条 専門家の相談を受けようとする申請者等は、相談申請書（様式第1号）に必要事項

を記載するとともに、市長に提出しなければならない。

- 2 市長は、相談が必要と認めた場合、専門相談の種別を決定し、専門家の所属する各相談機関に相談申請書（様式第1号）を送付し、相談担当者の選任等を依頼する。当該相談機関は、相談担当者を選任し、相談受諾通知書（様式第2号）により、市長に通知する。
- 3 市長は、当該申請者等に相談決定通知書（様式第3号）を交付し、通知する。
- 4 当該申請者等及び相談担当者は、相談決定通知書（様式第3号）に基づき、それぞれ日程等を調整のうえ相談を実施する。

（報告）

第8条 相談担当者の派遣を受けた当該申請者等は、相談結果を速やかに市長に報告しなければならない。

- 2 相談機関は、相談結果を相談結果報告書（様式第4号）により市長に報告しなければならない。

第3章 相続人調査等補助制度（第2条第1項第9号関係）

（申請者等の要件）

第9条 申請者等は、催告等を受けた建物所有者等で、当該催告等に従って、当該催告相当特定空家等又は当該催告相当特定類似空家等を解体除却するために相続人調査等を行う者で、第3条に規定する要件に該当する者とする。

（利用の範囲）

第10条 催告相当特定空家等又は催告相当特定類似空家等の所有者の死亡等により、相続関係が明らかでない又は相続人間の権利調整が成立しないとき、その解決のために、申請者等が弁護士又は司法書士等の資格を有しそれを業として行う者又は事業体（以下「弁護士等」という。）に依頼して相続人調査等を行う場合であること。ただし、当該催告相当特定空家等又は当該催告相当特定類似空家等の解体除却を行う場合に限る。

- 2 第12条の補助金交付申請は、解体除却対象となる一建物（同一敷地内に複数の建物がある場合はその全て）につき、一回のみとする。

（補助金）

第11条 市長は、予算の範囲内で、申請者等に対して第10条に規定する事業の実施に要する経費（戸籍等取得手数料、所有権移転等不動産登記に要する費用、弁護士等への報酬、その他相続人調査等のために必要な経費）の3分の1（その額に千円未満の端数がある場

合においては、その端数を切り捨てた額) 以内かつ 30 万円を超えない額を限度に補助することができる。

(申請手続き)

第 12 条 申請者等は、補助金の交付を受けようとするときは補助金交付申請書(様式第 5 号)に必要事項を記載し、次の各号すべての書類を添えて市長に提出しなければならない。ただし、市長が必要ないと判断した書類については添付を省略することができる。

- (1) 申請者等と被相続人との関係がわかる書類
- (2) 相続人調査等に要する金額がわかる書類
- (3) 付近見取図
- (4) 配置図
- (5) 外観写真(2 か月以内のもの)
- (6) 建物の登記事項証明書(3 か月以内のもの)
- (7) 所得証明書
- (8) 解体除却の完了期限に関する誓約書
- (9) 前各号のほか、市長が必要と認める書類

(補助金の交付決定)

第 13 条 市長は、補助金交付申請書を受理した場合は、これを審査し、適当と認めたときは、補助金の交付を決定し、補助金交付決定通知書(様式第 6 号)により当該申請者等に通知するものとし、補助金の交付をすることが不適当と認めたときは、不適当である理由を付してその旨通知するものとする。

- 2 市長は、前項の補助金の交付を決定するにあたり、必要があるときは当該補助金の交付について条件を付すことができる。
- 3 申請者等は、補助金の交付決定通知を受けた後、相続人調査等を行う弁護士等と契約するものとする。

(内容の変更、取下げ等)

第 14 条 申請者等は、交付決定の通知を受けた相続人調査等の内容を変更しようとするときは、補助金交付内容変更承認申請書(様式第 7 号)により、市長の承認を受けなければならない。

- 2 市長は、前項の規定による内容変更承認の申請があったときは、変更に係る内容について審査し、これを承認するときは、市の補助金の交付決定を変更し、補助金交付決定変更通知書(様式第 8 号)により、当該変更を承認した内容及び変更した交付決定額を申請者等に通知するものとし、当該変更を承認しないときは、承認しない理由を付して、その旨通知するものとする。

- 3 申請者等が、申請を取り下げるときは、速やかに補助事業中止（廃止）承認申請書（様式第9号）を市長に提出し、市長の承認を受けなければならない。
- 4 市長は、前項の規定による補助事業中止（廃止）承認の申請があったときは、これを審査し、承認するときは、補助事業中止（廃止）承認通知書（様式第10号）により、当該申請を承認した旨を申請者等に通知するものとし、当該申請を承認しないときは、承認しない理由を付して、その旨通知するものとする。

（交付決定の取消し）

第15条 市長は、申請者等が次の各号のいずれかに該当するときは、補助金交付決定を取り消すことができる。

- (1) 前条の規定により補助事業中止（廃止）を承認したとき
 - (2) 虚偽の申請その他不正の手段により補助金の交付の決定又は交付を受けたとき
 - (3) 補助金を他の用途に使用したとき
 - (4) 補助金の交付決定の内容又はこれに付した条件その他法令に基づく命令に違反したとき
 - (5) 相続人調査等の内容について、錯誤等があり、これについての報告又は是正を求めたにもかかわらず、その報告又は是正を行わないとき
 - (6) 正当な事由なく、交付決定を受けた年度内に補助事業完了実績報告書（様式第12号）を提出しないとき
 - (7) その他、補助を行うことが不適当と市長が認めるとき
- 2 市長は、前項第2号から第7号の規定により、補助金の交付決定を取り消したときは、補助金交付決定取消通知書（様式第11号）により、申請者等に通知するものとする。
- 3 第1項の規定は、第17条の補助金の額の確定の後においても適用するものとする。

（実績報告）

第16条 申請者等は、当該補助事業及び勧告相当特定空家等又は勧告相当特定類似空家等の解体除却が完了したときは、完了の日から起算して30日を経過した日又は交付申請を行った年度の末日のいずれか早い日までに、補助事業完了実績報告書（様式第12号）により市長に報告をしなければならない。

- 2 前項の報告書には、次の各号すべての書類を添付しなければならない。ただし、市長が必要ないと判断した書類については添付を省略することができる。
- (1) 契約書の写し
 - (2) 相続人調査等の成果物のうち相続人と被相続人との関係がわかる書類の写しその他相続人調査等の概要がわかる書類の写し
 - (3) 領収書又はそれに代わる証明の写し
 - (4) 勧告相当特定空家等又は勧告相当特定類似空家等の解体除却後の写真

(5) 前各号のほか、市長が必要と認める書類

(補助金の額の確定)

第17条 市長は、前条の補助事業完了実績報告書(様式第12号)を受理した場合は、報告書の内容の審査及び必要に応じて行う現地調査により、当該報告に係る相続人調査等が交付の決定の内容及びこれに付した条件に適合しているかどうかを調査し、適合すると認めるときは、当該相続人調査等に要した経費に補助率を乗じて得た額と、補助金の交付決定額とを比較して、いずれか低い額をもって交付すべき補助金の額を確定し、補助金の額の確定通知書(様式第13号)により、申請者等に当該年度の末日までに通知するものとする。

2 市長は、確定した補助金の交付額が、補助金の交付の決定における交付予定額と同額である場合は、前項の規定による通知を省略することができる。

(補助金の交付)

第18条 申請者等は、前条の規定により通知された補助金の支給を受けようとするときは、補助金交付請求書(様式第14号)を市長に提出しなければならない。

2 前項の請求があったときは、市長は速やかに補助金を申請者等に交付するものとする。

3 申請者等と口座名義が異なる口座への振込となる場合、申請者等は第1項に規定する請求書にあわせて、受領委任状(様式第30号)を市長に提出しなければならない。

(補助金の返還)

第19条 市長は、補助金の交付の決定を取り消した場合において、すでに補助金が交付されているときは、補助金返還命令書(様式第15号)により期限を定めてその返還を命ずるものとする。

(延滞金)

第20条 前条の規定により補助金の返還を命ぜられた者は、当該命令に係る補助金の返還期限の翌日から返還の日までの期間に応じ、当該補助金の返還額につき神戸市債権の管理に関する条例(平成28年3月条例第29号。以下「債権管理条例」という。)第7条第1項に規定する延滞金を納付しなければならない。

(手続きの代行)

第21条 申請者等は、本制度にかかる手続きを第三者に代行させることができる。

2 申請者等は、前項の手続きを代行させる場合、第三者に委任する旨を市長へ文書にて提出しなければならない。

第4章 剪定伐採等補助制度（第2条第1項第10号関係）

（申請者等の要件）

第22条 申請者等は、次の各項のいずれかに該当し、かつ、第3条に規定する要件に該当する者とする。

- 2 勧告等に従って、勧告相当管理不全空家等、勧告相当管理不全類似空家等、勧告相当管理不全空地等、勧告相当特定空家等、勧告相当特定類似空家等若しくは勧告相当特定空地等の剪定伐採等をしようとする所有者等又は当該勧告相当管理不全空家等、当該勧告相当管理不全類似空家等、当該勧告相当特定空家等若しくは当該勧告相当特定類似空家等が存する土地の所有者等
- 3 勧告相当管理不全空家等、勧告相当管理不全類似空家等、勧告相当管理不全空地等、勧告相当特定空家等、勧告相当特定類似空家等又は勧告相当特定空地等の所有者等の了解を得て剪定伐採等をしようとする地域団体や近隣住民
- 4 条例第13条により氏名等を公表された所有者等の了解を得て剪定伐採等をしようとする地域団体や近隣住民

（利用の範囲）

第23条 申請者等は、過去に剪定伐採等補助制度を活用している場合は、その交付日から5年経過した日が属する年度を越えていなければならない。

（補助金）

第24条 市長は、第22条第2項及び第3項に規定する申請者等に対しては、予算の範囲内で、立木竹の剪定伐採等作業に要する経費の2分の1（その額に千円未満の端数がある場合においては、その端数を切り捨てた額）以内かつ60万円を超えない額を、雑草の除去作業に要する経費の2分の1（その額に千円未満の端数がある場合においては、その端数を切り捨てた額）以内かつ5万円を超えない額を限度にそれぞれ補助することができる。

- 2 市長は、第22条第4項に規定する申請者等に対しては、予算の範囲内で、立木竹の剪定伐採等作業に要する経費の10分の9（その額に千円未満の端数がある場合においては、その端数を切り捨てた額）以内かつ108万円を超えない額を、雑草の除去作業に要する経費の10分の9（その額に千円未満の端数がある場合においては、その端数を切り捨てた額）以内かつ9万円を超えない額を限度にそれぞれ補助することができる。

第24条の2 市長は、第22条第2項に規定する申請者等に生活保護法（昭和25年法律第144号）第6条第1項に規定する被保護者（以下「受給者」という。）が存する場合、第

22 条に規定する事業の実施に要する経費のうち、その者の所有権の持分割合を乗じて得た額について、予算の範囲内で、全額補助することができる。ただし、立木竹の剪定伐採等作業については 120 万円のうち、その者の所有権の持分割合を乗じて得た額を、雑草の除去作業については 10 万円のうち、その者の所有権の持分割合を乗じて得た額をそれぞれ上限とする。

(申請手続き)

第 25 条 申請者等は、補助金の交付を受けようとするときは補助金交付申請書（様式第 16 号）に必要事項を記載し、次の各号すべての書類を添えて市長に提出しなければならない。ただし、市長が必要ないと判断した書類については添付を省略することができる。

- (1) 土地又は建物の登記事項証明書（3 か月以内のもの）
- (2) 付近見取図
- (3) 現況写真（剪定伐採等を行う立木竹等を明示すること）（2 か月以内のもの）
- (4) 作業計画書（作業内容がわかる図面等）
- (5) 見積書の写し（内訳書を含む。なお、第 24 条の 2 に規定する補助金を適用する場合、追加の見積書の写しの提出を求める場合がある）
- (6) 所得証明書（受給者は除く）
- (7) 生活保護適用証明書（1 か月以内のもの。受給者に限る）
- (8) 前各号のほか、市長が必要と認める書類

(補助金の交付決定)

第 26 条 市長は、補助金交付申請書（様式第 16 号）を受理した場合は、これを審査し、適当と認めるときは、補助金の交付を決定し、補助金交付決定通知書（様式第 17 号）により当該申請者等に通知するものとし、補助金の交付をすることが不適当と認めるときは、不適当である理由を付してその旨通知するものとする。

- 2 市長は、前項の補助金の交付を決定するにあたり、必要があるときは当該補助金の交付について条件を付すことができる。
- 3 申請者等は、補助金の交付決定通知を受けた後、剪定伐採等作業業者と契約するものとする。

(内容の変更、取下げ等)

第 27 条 申請者等は、交付決定の通知を受けた剪定伐採等作業の内容を変更しようとするときは、補助金交付内容変更承認申請書（様式第 18 号）を、市長に提出しなければならない。

- 2 市長は、前項の規定による内容変更承認の申請があったときは、変更に係る内容について審査し、これを承認するときは、市の補助金の交付決定を変更し、補助金交付決定変更

通知書（様式第 19 号）により、当該変更を承認した内容及び変更した交付決定額を申請者等に通知するものとし、当該変更を承認しないときは、承認しない理由を付して、その旨通知するものとする。

- 3 申請者等が、申請を取り下げるとき又は剪定伐採等作業を取りやめるときは、速やかに補助事業中止（廃止）承認申請書（様式第 20 号）を市長に提出し、市長の承認を受けなければならない。
- 4 市長は、前項の規定による補助事業中止（廃止）承認の申請があったときは、これを審査し、承認するときは、補助事業中止（廃止）承認通知書（様式第 21 号）により、当該申請を承認した旨を申請者等に通知するものとし、当該申請を承認しないときは、承認しない理由を付して、その旨通知するものとする。

（交付決定の取消し）

第 28 条 市長は、申請者等が次の各号のいずれかに該当するときは、補助金交付決定を取り消すことができる。

- (1) 前条の規定により補助事業中止（廃止）を承認したとき
 - (2) 虚偽の申請その他不正の手段により補助金の交付の決定又は交付を受けたとき
 - (3) 補助金を他の用途に使用したとき
 - (4) 補助金の交付決定の内容又はこれに付した条件その他法令に基づく命令に違反したとき
 - (5) 剪定伐採等作業の内容について、錯誤等があり、これについての報告又は是正を求めたにもかかわらず、その報告又は是正を行わないとき
 - (6) 正当な事由なく、交付決定を受けた年度内に補助事業完了実績報告書（様式第 23 号）を提出しないとき
 - (7) その他、補助を行うことが不相当と市長が認めるとき
- 2 市長は、前項第 2 号から第 7 号の規定により、補助金の交付決定を取り消したときは、補助金交付決定取消通知書（様式第 22 号）により、申請者等に通知するものとする。
 - 3 第 1 項の規定は、第 30 条の補助金の額の確定の後においても適用するものとする。

（実績報告）

第 29 条 申請者等は、当該補助事業が完了したときは、当該事業完了の日から起算して 30 日を経過した日又は交付申請を行った年度の末日のいずれか早い日までに、補助事業完了実績報告書（様式第 23 号）により市長に報告をしなければならない。

- 2 前項の報告書には、次の各号すべての書類を添付しなければならない。ただし、市長が必要ないと判断した書類については添付を省略することができる。
 - (1) 契約書の写し
 - (2) 領収書又はそれに代わる証明の写し

- (3) 剪定伐採等後の写真
- (4) 前各号のほか、市長が必要と認める書類

(補助金の額の確定)

第30条 市長は、前条の補助事業完了実績報告書(様式第23号)を受領した場合は、報告書の内容の審査及び必要に応じて行う現地調査により、当該報告に係る剪定伐採等作業が交付の決定の内容及びこれに付した条件に適合しているかどうかを調査し、適合すると認めるときは、当該剪定伐採等作業に要した経費に補助率を乗じて得た額と、補助金の交付決定額とを比較して、いずれか低い額をもって交付すべき補助金の額を確定し、補助金の額の確定通知書(様式第24号)により、申請者等に当該年度の末日までに通知するものとする。

- 2 市長は、確定した補助金の交付額が、補助金の交付の決定における交付予定額と同額である場合は、前項の規定による通知を省略することができる。

(補助金の交付)

第31条 申請者等は、前条の規定により通知された補助金の支給を受けようとするときは、補助金交付請求書(様式第25号)を市長に提出しなければならない。

- 2 前項の請求があったときは、市長は速やかに補助金を申請者等に交付するものとする。
- 3 申請者等と口座名義が異なる口座への振込となる場合、申請者等は第1項に規定する請求書にあわせて、受領委任状(様式第30号)を市長に提出しなければならない。

(補助金の返還)

第32条 市長は、補助金の交付の決定を取り消した場合において、すでに補助金が交付されているときは、補助金返還命令書(様式第26号)により期限を定めてその返還を命ずるものとする。

(延滞金)

第33条 前条の規定により補助金の返還を命ぜられた者は、当該命令に係る補助金の返還期限の翌日から返還の日までの期間に応じ、当該補助金の返還額につき債権管理条例第7条第1項に規定する延滞金を納付しなければならない。

(手続きの代行)

第34条 申請者等は、本制度にかかる手続きを第三者に代行させることができる。

- 2 申請者等は、前項の手続きを代行させる場合、第三者に委任する旨を市長へ文書にて提出しなければならない。

第5章 応急的危険回避措置補助制度（第2条第1項第11号関係）

（申請者等の要件）

第35条 申請者等は、勧告等に従って、勧告相当管理不全空家等、勧告相当管理不全類似空家等、勧告相当特定空家等又は勧告相当特定類似空家等の建築物若しくはこれに附属する工作物の保安上危険な箇所の応急的危険回避措置をしようとする建物所有者等で、第3条に規定する要件に該当する者とする。

（補助金）

第36条 市長は、予算の範囲内で、申請者等に対して第35条に規定する事業の実施に要する経費の2分の1（その額に千円未満の端数がある場合においては、その端数を切り捨てた額）以内かつ30万円を超えない額を限度に補助することができる。

（申請手続き）

第37条 申請者等は、補助金の交付を受けようとするときは補助金交付申請書（様式第16号-2）に必要事項を記載し、次の各号すべての書類を添えて市長に提出しなければならない。ただし、市長が必要ないと判断した書類については添付を省略することができる。

- (1) 建物の登記事項証明書（3か月以内のもの）
- (2) 付近見取図
- (3) 配置図
- (4) 外観写真（応急的危険回避措置を行う箇所を明示すること）（2か月以内のもの）
- (5) 見積書の写し（内訳書を含む）
- (6) 所得証明書
- (7) 前各号のほか、市長が必要と認める書類

（補助金の交付決定）

第38条 市長は、補助金交付申請書（様式第16号-2）を受理した場合は、これを審査し、適当と認めたときは、補助金の交付を決定し、補助金交付決定通知書（様式第17号）により当該申請者等に通知するものとし、補助金の交付をすることが不適当と認めたときは、不適当である理由を付してその旨通知するものとする。

- 2 市長は、前項の補助金の交付を決定するにあたり、必要があるときは当該補助金の交付について条件を付することができる。
- 3 申請者等は、補助金の交付決定通知を受けた後、応急的危険回避措置施工業者と契約するものとする。

(内容の変更、取下げ等)

第 39 条 申請者等は、交付決定の通知を受けた応急的危険回避措置の内容を変更しようとするときは、補助金交付内容変更承認申請書(様式第 18 号)により、市長の承認を受けなければならない。

2 市長は、前項の規定による内容変更承認の申請があったときは、変更に係る内容について審査し、これを承認するときは、市の補助金の交付決定を変更し、補助金交付決定変更通知書(様式第 19 号)により、当該変更を承認した内容及び変更した交付決定額を申請者等に通知するものとし、当該変更を承認しないときは、承認しない理由を付して、その旨通知するものとする。

3 申請者等が、申請を取り下げるとき又は工事を取りやめるときは、速やかに補助事業中止(廃止)承認申請書(様式第 20 号)を市長に提出し、市長の承認を受けなければならない。

4 市長は、前項の規定による補助事業中止(廃止)承認の申請があったときは、これを審査し、承認するときは、補助事業中止(廃止)承認通知書(様式第 21 号)により、当該申請を承認した旨を申請者等に通知するものとし、当該申請を承認しないときは、承認しない理由を付して、その旨通知するものとする。

(交付決定の取消し)

第 40 条 市長は、申請者等が次の各号のいずれかに該当するときは、補助金交付決定を取り消すことができる。

(1) 前条の規定により補助事業中止(廃止)を承認したとき

(2) 虚偽の申請その他不正の手段により補助金の交付の決定又は交付を受けたとき

(3) 補助金を他の用途に使用したとき

(4) 補助金の交付決定の内容又はこれに付した条件その他法令に基づく命令に違反したとき

(5) 応急的危険回避措置の内容について、錯誤等があり、これについての報告又は是正を求めたにもかかわらず、その報告又は是正を行わないとき

(6) 正当な事由なく、交付決定を受けた年度内に補助事業完了実績報告書(様式第 23 号)を提出しないとき

(7) その他、補助を行うことが不相当と市長が認めるとき

2 市長は、前項第 2 号から第 7 号の規定により、補助金の交付決定を取り消したときは、補助金交付決定取消通知書(様式第 22 号)により、申請者等に通知するものとする。

3 第 1 項の規定は、第 42 条の補助金の額の確定の後においても適用するものとする。

(実績報告)

第 41 条 申請者等は、当該補助事業が完了したときは、当該事業完了の日から起算して 30

日を経過した日又は交付申請を行った年度の末日のいずれか早い日までに、補助事業完了実績報告書（様式第 23 号）により市長に報告をしなければならない。

2 前項の報告書には、次の各号すべての書類を添付しなければならない。ただし、市長が必要ないと判断した書類については添付を省略することができる。

- (1) 契約書の写し
- (2) 領収書又はそれに代わる証明の写し
- (3) 応急的危険回避措置後の写真
- (4) 前各号のほか、市長が必要と認める書類

（補助金の額の確定）

第 42 条 市長は、前条の補助事業完了実績報告書（様式第 23 号）を受理した場合は、報告書の内容の審査及び必要に応じて行う現地調査により、当該報告に係る応急的危険回避措置が交付の決定の内容及びこれに付した条件に適合しているかどうかを調査し、適合すると認めたときは、当該応急的危険回避措置に要した経費に補助率を乗じて得た額と、補助金の交付決定額とを比較して、いずれか低い額をもって交付すべき補助金の額を確定し、補助金の額の確定通知書（様式第 24 号）により、申請者等に当該年度の末日までに通知するものとする。

2 市長は、確定した補助金の交付額が、補助金の交付の決定における交付予定額と同額である場合は、前項の規定による通知を省略することができる。

（補助金の交付）

第 43 条 申請者等は、前条の規定により通知された補助金の支給を受けようとするときは、補助金交付請求書（様式第 25 号）を市長に提出しなければならない。

- 2 前項の請求があったときは、市長は速やかに補助金を申請者等に交付するものとする。
- 3 申請者等と口座名義が異なる口座への振込となる場合、申請者等は第 1 項に規定する請求書にあわせて、受領委任状（様式第 30 号）を市長に提出しなければならない。

（補助金の返還）

第 44 条 市長は、補助金の交付の決定を取り消した場合において、すでに補助金が交付されているときは、補助金返還命令書（様式第 26 号）により期限を定めてその返還を命ずるものとする。

（延滞金）

第 45 条 前条の規定により補助金の返還を命ぜられた者は、当該命令に係る補助金の返還期限の翌日から返還の日までの期間に応じ、当該補助金の返還額につき債権管理条例第 7 条第 1 項に規定する延滞金を納付しなければならない。

(手続きの代行)

第 46 条 申請者等は、本制度にかかる手続きを第三者に代行させることができる。

2 申請者等は、前項の手続きを代行させる場合、第三者に委任する旨を市長へ文書にて提出しなければならない。

第 6 章 解体除却等補助制度（第 2 条第 1 項第 12 号関係）

(申請者等の要件)

第 47 条 申請者等は、勧告等に従って、保安上危険な勧告相当特定空家等若しくは勧告相当特定類似空家等を解体除却しようとする建物所有者等又は建物所有者等が不存在で民事執行法（昭和 54 年法律第 4 号）第 171 条に規定する代替執行の決定を得た当該敷地の所有者で、第 3 条に規定する要件に該当する者とする。

(補助金)

第 48 条 市長は、予算の範囲内で、申請者等に対して第 47 条に規定する事業の実施に要する経費の 3 分の 2（その額に千円未満の端数がある場合においては、その端数を切り捨てた額）以内かつ 120 万円（住戸数が 3 戸以上、かつ延べ面積が 100 m²以上で、原則、建築基準法（昭和 25 年法律第 201 号）で規定される共同住宅又は寄宿舍の用途に区分される建物は 200 万円）を超えない額を限度に補助することができる。ただし、第 5 章に規定する応急的危険回避措置補助制度及び老朽危険家屋等対策に係る技術的援助等実施要綱第 4 章に規定する応急的危険回避措置補助を利用した場合は、その交付額を減じた額を補助する。

第 48 条の 2 市長は、第 47 条に規定する申請者等に受給者が存する場合、同条に規定する事業の実施に要する経費のうち、その者の所有権の持分割合を乗じて得た経費について、予算の範囲内で、全額補助することができる。ただし、当該年度における「住宅局所管事業に係る標準建設費等について」の「不良住宅等除却費」で定める除却工事に要する費用の 1 m²当たりの額に延べ床面積を乗じた額のうち、その者の所有権の持分割合を乗じて得た額を上限とする。

2 市長は、受給者について、次の各号に規定する経費を前項の上限を超えて予算の範囲内で補助することができる。ただし、必要最小限とし、その者の所有権の持分割合を乗じて得た額を上限とする。

(1) 特定類似空家等で、隣家との界壁補修に要する経費

- (2) 当該建物の解体除却に際し、重機が進入できない等の要因でやむを得ず必要となる経費
- (3) その他、解体除却工事に付随すると認められる経費

(申請手続き)

第49条 申請者等は、補助金の交付を受けようとするときは補助金交付申請書(様式第16号-3)に必要な事項を記載し、次の各号すべての書類を添えて市長に提出しなければならない。ただし、市長が必要ないと判断した書類については添付を省略することができる。

- (1) 建物の登記事項証明書(3か月以内のもの)
- (2) 付近見取図
- (3) 配置図
- (4) 外観写真(2か月以内のもの)
- (5) 見積書の写し(内訳書を含む。なお、第48条の2に規定する補助金を適用する場合、追加の見積書の写しの提出を求める場合がある)
- (6) 所得証明書(受給者は除く)
- (7) 生活保護適用証明書(1か月以内のもの。受給者に限る)
- (8) 建設業法(昭和24年法律第100号)別表第1の下欄に掲げる土木工事業、建築工事業若しくは解体工事業に係る同法第3条第1項の許可を証する書類の写し又は建設工事に係る資材の再資源化等に関する法律(平成12年法律第104号)第21条第1項に規定する解体工事業者の登録を証する書類の写し
- (9) 前各号のほか、市長が必要と認める書類

(補助金の交付決定)

第50条 市長は、補助金交付申請書(様式第16号-3)を受理した場合は、これを審査し、適当と認めるときは、補助金の交付を決定し、補助金交付決定通知書(様式第17号)により当該申請者等に通知するものとし、補助金の交付をすることが不適当と認めるときは、不適当である理由を付してその旨通知するものとする。

- 2 市長は、前項の補助金の交付を決定するにあたり、必要があるときは当該補助金の交付について条件を付することができる。
- 3 申請者等は、補助金の交付決定通知を受けた後、解体除却施工業者と契約するものとする。

(内容の変更、取下げ等)

第51条 申請者等は、交付決定の通知を受けた解体除却工事の内容を変更しようとするときは、補助金交付内容変更承認申請書(様式第18号)により、市長の承認を受けなければならない。

- 2 市長は、前項の規定による内容変更承認の申請があったときは、変更に係る内容について審査し、これを承認するときは、市の補助金の交付決定を変更し、補助金交付決定変更通知書（様式第 19 号）により、当該変更を承認した内容及び変更した交付決定額を申請者等に通知するものとし、当該変更を承認しないときは、承認しない理由を付して、その旨通知するものとする。
- 3 申請者等が、申請を取り下げるとき又は解体除却工事を取りやめるときは、速やかに補助事業中止（廃止）承認申請書（様式第 20 号）を市長に提出し、市長の承認を受けなければならない。
- 4 市長は、前項の規定による補助事業中止（廃止）承認の申請があったときは、これを審査し、承認するときは、補助事業中止（廃止）承認通知書（様式第 21 号）により、当該申請を承認した旨を申請者等に通知するものとし、当該申請を承認しないときは、承認しない理由を付して、その旨通知するものとする。

（交付決定の取消し）

第 52 条 市長は、申請者等が次の各号のいずれかに該当するときは、補助金交付決定を取り消すことができる。

- (1) 前条の規定により補助事業中止（廃止）が承認されたとき
 - (2) 虚偽の申請その他不正の手段により補助金の交付の決定又は交付を受けたとき
 - (3) 補助金を他の用途に使用したとき
 - (4) 補助金の交付決定の内容又はこれに付した条件その他法令に基づく命令に違反したとき
 - (5) 解体除却工事の内容について、錯誤等があり、これについての報告又は是正を求めたにもかかわらず、その報告又は是正を行わないとき
 - (6) 正当な事由なく、交付決定を受けた年度内に補助事業完了実績報告書（様式第 23 号）を提出しないとき
 - (7) その他、補助を行うことが不適当と市長が認めるとき
- 2 市長は、前項第 2 号から第 7 号の規定により、補助金の交付決定を取り消したときは、補助金交付決定取消通知書（様式第 22 号）により、申請者等に通知するものとする。
 - 3 第 1 項の規定は、第 54 条の補助金の額の確定の後においても適用するものとする。

（実績報告）

第 53 条 申請者等は、当該補助事業が完了したときは、当該事業完了の日から起算して 30 日を経過した日又は交付申請を行った年度の末日のいずれか早い日までに、補助事業完了実績報告書（様式第 23 号）により市長に報告をしなければならない。

- 2 前項の報告書には、次の各号すべての書類を添付しなければならない。ただし、市長が必要ないと判断した書類については添付を省略することができる。

- (1) 契約書の写し
- (2) 領収書又はそれに代わる証明の写し
- (3) 解体除却後の写真
- (4) 前各号のほか、市長が必要と認める書類

(補助金の額の確定)

第54条 市長は、前条の補助事業完了実績報告書(様式第23号)を受領した場合は、報告書の内容の審査及び必要に応じて行う現地調査により、当該報告に係る解体除却工事が交付の決定の内容及びこれに付した条件に適合しているかどうかを調査し、適合すると認めるときは、当該解体除却工事に要した経費に補助率を乗じて得た額と、補助金の交付決定額とを比較して、いずれか低い額をもって交付すべき補助金の額を確定し、補助金の額の確定通知書(様式第24号)により、申請者等に当該年度の末日までに通知するものとする。

- 2 市長は、確定した補助金の交付額が、補助金の交付の決定における交付予定額と同額である場合は、前項の規定による通知を省略することができる。

(補助金の交付)

第55条 申請者等は、前条の規定により通知された補助金の支給を受けようとするときは、補助金交付請求書(様式第25号)を市長に提出しなければならない。

- 2 前項の請求があったときは、市長は速やかに補助金を申請者等に交付するものとする。
- 3 申請者等と口座名義が異なる口座への振込となる場合、申請者等は第1項に規定する請求書にあわせて、受領委任状(様式第30号)を市長に提出しなければならない。

(補助金の返還)

第56条 市長は、補助金の交付の決定を取り消した場合において、すでに補助金が交付されているときは、補助金返還命令書(様式第26号)により期限を定めてその返還を命ずるものとする。

(延滞金)

第57条 前条の規定により補助金の返還を命ぜられた者は、当該命令に係る補助金の返還期限の翌日から返還の日までの期間に応じ、当該補助金の返還額につき債権管理条例第7条第1項に規定する延滞金を納付しなければならない。

(手続きの代行)

第58条 申請者等は、本制度にかかる手続きを第三者に代行させることができる。

2 申請者等は、前項の手続きを代行させる場合、第三者に委任する旨を市長へ文書にて提出しなければならない。

第7章 土地所有者等補助制度（第2条第1項第13号関係）

（申請者等の要件）

第59条 申請者等は、建物所有者等を確知することができない勧告相当特定空家等又は勧告相当特定類似空家等が存する土地の所有者等で、当該勧告相当特定空家等又は当該勧告相当特定類似空家等を解体除却するために、平成28年4月1日以降に財産管理人選任申立等を行う者又は行った者で、第3条に規定する要件に該当する者とする。

（利用の範囲）

第60条 第62条の補助金交付申請は、解体除却対象となる一建物（同一敷地内に複数の建物がある場合はその全て）につき、一回のみとする。

（補助金）

第61条 市長は、予算の範囲内で、申請者等に対して財産管理人選任申立等に要する申立費用及び予納金等の必要経費、弁護士等への委任経費の3分の1（その額に千円未満の端数がある場合においては、その端数を切り捨てた額）以内かつ30万円を超えない額を限度に補助することができる。ただし、財産管理人選任申立等に係る予納金については、財産管理人の報酬のみ対象とする。

（申請手続き）

第62条 申請者等は、補助金の交付を受けようとするときは、補助金交付申請書（様式第5号）に必要事項を記載し、次の各号すべての書類を添えて市長に提出しなければならない。ただし、市長が必要ないと判断した書類については添付を省略することができる。

- (1) 財産管理人選任申立等に要する金額がわかる書類
- (2) 付近見取図
- (3) 配置図
- (4) 外観写真（2か月以内のもの）
- (5) 土地及び建物の登記事項証明書（3か月以内のもの）
- (6) 所得証明書
- (7) 解体除却の完了期限に関する誓約書
- (8) 前各号のほか、市長が必要と認める書類

(補助金の交付決定)

第 63 条 市長は、補助金交付申請書を受理した場合は、これを審査し、適当と認めるときは、補助金の交付を決定し、補助金交付決定通知書(様式第 6 号)により当該申請者等に通知するものとし、補助金の交付をすることが不適当と認めるときは、不適当である理由を付してその旨通知するものとする。

2 市長は、前項の補助金の交付を決定するにあたり、必要があるときは当該補助金の交付について条件を付することができる。

(内容の変更、取下げ等)

第 64 条 申請者等は、交付決定の通知を受けた財産管理人選任申立等の内容を変更しようとするときは、補助金交付内容変更承認申請書(様式第 7 号)により、市長の承認を受けなければならない。

2 市長は、前項の規定による内容変更承認の申請があったときは、変更に係る内容について審査し、これを承認するときは、市の補助金の交付決定を変更し、補助金交付決定変更通知書(様式第 8 号)により、当該変更を承認した内容及び変更した交付決定額を申請者等に通知するものとし、当該変更を承認しないときは、承認しない理由を付して、その旨通知するものとする。

3 申請者等が、申請を取り下げるときは、速やかに補助事業中止(廃止)承認申請書(様式第 9 号)を市長に提出し、市長の承認を受けなければならない。

4 市長は、前項の規定による補助事業中止(廃止)承認の申請があったときは、これを審査し、承認するときは、補助事業中止(廃止)承認通知書(様式第 10 号)により、当該申請を承認した旨を申請者等に通知するものとし、当該申請を承認しないときは、承認しない理由を付して、その旨通知するものとする。

(交付決定の取消し)

第 65 条 市長は、申請者等が次の各号のいずれかに該当するときは、補助金交付決定を取り消すことができる。

(1) 前条の規定により補助事業中止(廃止)を承認したとき

(2) 虚偽の申請その他不正の手段により補助金の交付の決定又は交付を受けたとき

(3) 補助金を他の用途に使用したとき

(4) 補助金の交付決定の内容又はこれに付した条件その他法令に基づく命令に違反したとき

(5) 財産管理人選任申立等の内容について、錯誤等があり、これについての報告又は是正を求めたにもかかわらず、その報告又は是正を行わないとき

(6) 正当な事由なく、交付決定を受けた年度内に補助事業完了実績報告書(様式第 12 号)を提出しないとき

(7) その他、補助を行うことが不適当と市長が認めるとき

- 2 市長は、前項第2号から第7号の規定により、補助金の交付決定を取り消したときは、補助金交付決定取消通知書（様式第11号）により、申請者等に通知するものとする。
- 3 第1項の規定は、第67条の補助金の額の確定の後においても適用するものとする。

(実績報告)

第66条 申請者等は、当該補助事業及び勧告相当特定空家等又は勧告相当特定類似空家等の解体除却が完了したときは、完了の日から起算して30日を経過した日又は交付申請を行った年度の末日のいずれか早い日までに、補助事業完了実績報告書（様式第12号）により市長に報告をしなければならない。

2 前項の報告書には、次の各号すべての書類を添付しなければならない。ただし、市長が必要ないと判断した書類については添付を省略することができる。

- (1) 財産管理人選任申立等の成果物
- (2) 領収書又はそれに代わる証明の写し
- (3) 勧告相当特定空家等又は勧告相当特定類似空家等の解体除却後の写真
- (4) 前各号のほか、市長が必要と認める書類

(補助金の額の確定)

第67条 市長は、前条の補助事業完了実績報告書（様式第12号）を受領した場合は、報告書の内容の審査及び必要に応じて行う現地調査により、当該報告に係る財産管理人選任申立等が交付の決定の内容及びこれに付した条件に適合しているかどうかを調査し、適合すると認めたときは、当該財産管理人選任申立等に要した経費に補助率を乗じて得た額と、補助金の交付決定額とを比較して、いずれか低い額をもって交付すべき補助金の額を確定し、補助金の額の確定通知書（様式第13号）により、申請者等に当該年度の末日までに通知するものとする。

2 市長は、確定した補助金の交付額が、補助金の交付の決定における交付予定額と同額である場合は、前項の規定による通知を省略することができる。

(補助金の交付)

第68条 申請者等は、前条の規定により通知された補助金の支給を受けようとするときは、補助金交付請求書（様式第14号）を市長に提出しなければならない。

- 2 前項の請求があったときは、市長は速やかに補助金を申請者等に交付するものとする。
- 3 申請者等と口座名義が異なる口座への振込となる場合、申請者等は第1項に規定する請求書にあわせて、受領委任状（様式第30号）を市長に提出しなければならない。

(補助金の返還)

第 69 条 市長は、補助金の交付の決定を取り消した場合において、すでに補助金が交付されているときは、補助金返還命令書（様式第 15 号）により期限を定めてその返還を命ずるものとする。

（延滞金）

第 70 条 前条の規定により補助金の返還を命ぜられた者は、当該命令に係る補助金の返還期限の翌日から返還の日までの期間に応じ、当該補助金の返還額につき債権管理条例第 7 条第 1 項に規定する延滞金を納付しなければならない。

（手続きの代行）

第 71 条 申請者等は、本制度にかかる手続きを第三者に代行させることができる。

2 申請者等は、前項の手続きを代行させる場合、第三者に委任する旨を市長へ文書にて提出しなければならない。

第 8 章 （削除）

第 72 条から第 80 条まで削除

第 9 章 剪定伐採等補助制度（越境型）（第 2 条第 1 項第 15 号関係）

（申請者等の要件）

第 81 条 申請者等は、管理不全空家等、管理不全類似空家等、管理不全空地等、特定空家等、特定類似空家等又は特定空地等のうち、所有者等を確知できない等の理由により法第 13 条第 1 項の助言、法第 22 条第 1 項の助言若しくは指導、条例第 10 条第 1 項の指導又は条例第 11 条第 1 項の助言若しくは指導を行うことができないものについて、隣接土地の境界を越境している立竹木（当該土地から越境している部分の隣接土地からの高さが概ね 5 メートルを超えるものに限る。）の枝を切り取ろうとする隣接土地所有者で、かつ、第 3 条に規定する要件に該当する者とする。

（利用の範囲）

第 82 条 申請者等は、過去に剪定伐採等補助制度（越境型）を活用している場合は、その交付日から 5 年経過した日が属する年度を越えていなければならない。ただし土地の状況等により市長が特に認める場合はこの限りではない。

(補助金)

第 83 条 市長は、第 81 条に規定する申請者等に対しては、予算の範囲内で、立木竹の剪定等作業に要する経費の 2 分の 1 (その額に千円未満の端数がある場合においては、その端数を切り捨てた額) 以内かつ 60 万円を超えない額を限度に補助することができる。

(申請手続き)

第 84 条 申請者等は、補助金の交付を受けようとするときは補助金交付申請書 (様式第 31 号) に必要事項を記載し、次の各号すべての書類を添えて市長に提出しなければならない。ただし、市長が必要ないと判断した書類については添付を省略することができる。

- (1) 申請者等の土地の登記事項証明書 (3 か月以内のもの)
- (2) 付近見取図
- (3) 現況写真 (剪定等を行う立木竹等を明示すること) (2 か月以内のもの)
- (4) 作業計画書 (作業内容がわかる図面等)
- (5) 見積書の写し (内訳書を含む)
- (6) 前各号のほか、市長が必要と認める書類

(補助金の交付決定)

第 85 条 市長は、補助金交付申請書 (様式第 31 号) を受理した場合は、これを審査し、適当と認めたときは、補助金の交付を決定し、補助金交付決定通知書 (様式第 17 号) により当該申請者等に通知するものとし、補助金の交付をすることが不相当と認めたときは、不相当である理由を付してその旨通知するものとする。

- 2 市長は、前項の補助金の交付を決定するにあたり、必要があるときは当該補助金の交付について条件を付することができる。
- 3 申請者等は、補助金の交付決定通知を受けた後、剪定等作業業者と契約するものとする。

(内容の変更、取下げ等)

第 86 条 申請者等は、交付決定の通知を受けた剪定等作業の内容を変更しようとするときは、補助金交付内容変更承認申請書 (様式第 18 号) を、市長に提出しなければならない。

- 2 市長は、前項の規定による内容変更承認の申請があったときは、変更に係る内容について審査し、これを承認するときは、市の補助金の交付決定を変更し、補助金交付決定変更通知書 (様式第 19 号) により、当該変更を承認した内容及び変更した交付決定額を申請者等に通知するものとし、当該変更を承認しないときは、承認しない理由を付して、その旨通知するものとする。
- 3 申請者等が、申請を取り下げるとき又は剪定等作業を取りやめるときは、速やかに補助事業中止 (廃止) 承認申請書 (様式第 20 号) を市長に提出し、市長の承認を受けなければならない。

4 市長は、前項の規定による補助事業中止（廃止）承認の申請があったときは、これを審査し、承認するときは、補助事業中止（廃止）承認通知書（様式第 21 号）により、当該申請を承認した旨を申請者等に通知するものとし、当該申請を承認しないときは、承認しない理由を付して、その旨通知するものとする。

（交付決定の取消し）

第 87 条 市長は、申請者等が次の各号のいずれかに該当するときは、補助金交付決定を取り消すことができる。

- (1) 前条の規定により補助事業中止（廃止）を承認したとき
- (2) 虚偽の申請その他不正の手段により補助金の交付の決定又は交付を受けたとき
- (3) 補助金を他の用途に使用したとき
- (4) 補助金の交付決定の内容又はこれに付した条件その他法令に基づく命令に違反したとき
- (5) 剪定等作業の内容について、錯誤等があり、これについての報告又は是正を求めたにもかかわらず、その報告又は是正を行わないとき
- (6) 正当な事由なく、交付決定を受けた年度内に補助事業完了実績報告書（様式第 23 号）を提出しないとき
- (7) その他、補助を行うことが不適当と市長が認めるとき

2 市長は、前項第 2 号から第 7 号の規定により、補助金の交付決定を取り消したときは、補助金交付決定取消通知書（様式第 22 号）により、申請者等に通知するものとする。

3 第 1 項の規定は、第 85 条の補助金の額の確定の後においても適用するものとする。

（実績報告）

第 88 条 申請者等は、当該補助事業が完了したときは、当該事業完了の日から起算して 30 日を経過した日又は交付申請を行った年度の末日のいずれか早い日までに、補助事業完了実績報告書（様式第 23 号）により市長に報告をしなければならない。

2 前項の報告書には、次の各号すべての書類を添付しなければならない。ただし、市長が必要ないと判断した書類については添付を省略することができる。

- (1) 契約書の写し
- (2) 領収書又はそれに代わる証明の写し
- (3) 剪定等後の写真
- (4) 前各号のほか、市長が必要と認める書類

（補助金の額の確定）

第 89 条 市長は、前条の補助事業完了実績報告書（様式第 23 号）を受理した場合は、報告書の内容の審査及び必要に応じて行う現地調査により、当該報告に係る剪定等作業が交

付の決定の内容及びこれに付した条件に適合しているかどうかを調査し、適合すると認められたときは、当該剪定等作業に要した経費に補助率を乗じて得た額と、補助金の交付決定額とを比較して、いずれか低い額をもって交付すべき補助金の額を確定し、補助金の額の確定通知書（様式第 24 号）により、申請者等に当該年度の末日までに通知するものとする。

- 2 市長は、確定した補助金の交付額が、補助金の交付の決定における交付予定額と同額である場合は、前項の規定による通知を省略することができる。

（補助金の交付）

第 90 条 申請者等は、前条の規定により通知された補助金の支給を受けようとするときは、補助金交付請求書（様式第 25 号）を市長に提出しなければならない。

- 2 前項の請求があったときは、市長は速やかに補助金を申請者等に交付するものとする。
- 3 申請者等と口座名義が異なる口座への振込となる場合、申請者等は第 1 項に規定する請求書にあわせて、受領委任状（様式第 30 号）を市長に提出しなければならない。

（補助金の返還）

第 91 条 市長は、補助金の交付の決定を取り消した場合において、すでに補助金が交付されているときは、補助金返還命令書（様式第 26 号）により期限を定めてその返還を命ずるものとする。

（延滞金）

第 92 条 前条の規定により補助金の返還を命ぜられた者は、当該命令に係る補助金の返還期限の翌日から返還の日までの期間に応じ、当該補助金の返還額につき債権管理条例第 7 条第 1 項に規定する延滞金を納付しなければならない。

（手続きの代行）

第 93 条 申請者等は、本制度にかかる手続きを第三者に代行させることができる。

- 2 申請者等は、前項の手続きを代行させる場合、第三者に委任する旨を市長へ文書にて提出しなければならない。

第 10 章 雑則

（施行細目）

第 94 条 この要綱に定めるもののほか、この要綱の施行について必要な事項は、建築住宅局長が定める。

附 則

(施行期日)

この要綱は、平成 28 年 4 月 1 日から施行する。

附 則 (平成 28 年 10 月 1 日改正)

この要綱は、平成 28 年 10 月 1 日から施行する。

附 則 (平成 30 年 8 月 1 日改正)

この要綱は、平成 30 年 9 月 1 日から施行する。

附 則 (平成 31 年 3 月 31 日改正)

この要綱は、平成31年 4 月 1 日から施行する。

附 則 (令和 2 年 7 月 1 日改正)

この要綱は、令和 2 年 7 月 1 日から施行する。

附 則 (令和 3 年 4 月 1 日改正)

この要綱は、令和 3 年 4 月 1 日から施行する。

附 則 (令和 5 年 4 月 1 日改正)

この要綱は、令和 5 年 4 月 1 日から施行する。

附 則 (令和 6 年 6 月 1 日改正)

この要綱は、令和 6 年 6 月 1 日から施行する。

空家等専門家派遣制度 相談申請書

太枠の中をご記入ください

神戸市長 宛

申請番号			受付日	年	月	日
相談申請者	氏名					
	住所	〒 電話 ()				
	権利関係	1. 建物所有者等 (本人・相続人・その他 ()) 2. 土地所有者等 (本人・相続人・その他 ()) 3. その他 ()				
相談事項	物件所在地	神戸市 区 町・通				
	内容 (概略)	※相談内容の概要について神戸市から相談機関、相談担当者へ情報提供すること及び相談担当者の回答内容について相談担当者から相談機関、神戸市へ情報提供することを承諾します。				
その他	私は、暴力団員による不当な行為の防止等に関する法律第2条第1項第6号に規定する暴力団員ではありません。また、同法律第2条第1項第2号に規定する暴力団又は暴力団員と密接な関係を有していません。					
神戸市 記入欄	(相手方等)					
	市担当者氏名・連絡先					

様式第2号 (第7条 関連)

空家等専門家派遣制度 相談受諾通知書

神戸市長 宛

(相談機関名)

下記の相談を受諾し、相談担当者を内定しましたので通知します。

記

申請 番号		受諾日	年	月	日
相談物件 所在地	神戸市	区		町・通	

相談担当者氏名	
相談担当者連絡先 (TEL、FAX、E-Mail)	
相談日時	1. 打合せにより決定 2. その他(指定) ()
相談場所	1. 打合せにより決定 2. その他(指定) ()
備考	

様式第3号 (第7条 関連)

空家等専門家派遣制度 相談決定通知書

(公 印 省 略)
第 号
令和 年 月 日

(申請者等)

様

神戸市長

下記のとおり相談の実施を決定したので通知します。
つきましては、相談担当者に直接連絡のうえ、相談を行ってください。

記

申 請 番 号	
相談物件 所在地	神戸市 区 町・通

相談機関名	
相談担当者氏名	
相談担当者連絡先	
相談日時	
相談場所	
備考	

空家等専門家派遣制度 相談結果報告書

神戸市長 宛

(相談機関名)

下記のとおり相談を実施しましたので報告します。

記

申請番号		報告日	年 月 日
相談物件所在地	神戸市 区 町・通		
申請者等氏名			

担当者氏名	
実施日時	年 月 日 () 時 分 ~ 時 分
実施場所	
相談内容	①相続・遺産分割 ②破産・債務整理 ③離婚 ④土地・建物登記 ⑤土地・建物所有権確認 ⑥境界・相隣関係 ⑦土地・建物明渡・収去 ⑧不動産競売 ⑨不動産賃貸借 ⑩不動産売買 ⑪建物維持・修繕 ⑫建替え ⑬その他 ()
相談結果	①相談のみ ②受任 (受任が可能な場合のみ) ③他機関紹介 ④その他 ()
	(概要)

令和 年度 相続人調査等補助制度
土地所有者等補助制度 補助金交付申請書

令和 年 月 日

神戸市長 宛

(〒 -)

申請者等住所

氏名

電話

標記補助金の交付を受けたいので、空家空地等対策に係る技術的援助等実施要綱（第12条、第62条）の規定により、関係書類を添えて下記のとおり申請します。

記

1 補助の対象となる建築物の所在地、構造

所在地：

構造：

2 補助事業の実施予定日

令和 年 月 日～令和 年 月 日

3 交付申請額 円

4 添付書類

- 申請者等と被相続人との関係がわかる書類（相続人調査等補助制度の場合）
相続人調査等又は財産管理人選任申立等に要する金額がわかる書類
付近見取図 配置図 外観写真（2か月以内のもの）
建物の登記事項証明書（3か月以内のもの）
土地の登記事項証明書（3か月以内のもの）（土地所有者等補助制度の場合）
所得証明書
解体除却の完了期限に関する誓約書
その他必要書類（ ）

5 その他

私は要綱第3条に規定する暴力団、暴力団員又は暴力団若しくは暴力団員と密接な関係を有する者でないことを申し添えます。

令和 年度 相続人調査等補助制度 補助金交付決定通知書
土地所有者等補助制度

(公 印 省 略)
第 号
令和 年 月 日

様

神戸市長

令和 年 月 日付交付申請のあった標記補助金について、空家空地等対策に係る技術的援助等実施要綱（第13条、第63条）の規定に基づき、下記のとおり交付を決定したので通知します。

記

- この補助金の対象は、令和 年 月 日付交付申請書のとおりとする。
- この事業の補助金の額は、次のとおりとする。
補助金の額 金 円
- 交付の条件は、次のとおりとする。
 - この事業を中止する場合は、あらかじめ市長の承認を受けなければならない。
 - この事業が令和 年 月 日までに完了しない場合、又はこの事業の遂行が困難になった場合は、速やかに市長に報告してその指示を受けなければならない。
 - この事業について完了実績報告を行う際には、補助金の対象となる建築物の解体除却を完了していなければならない。
 - この事業の執行にあたっては、空家空地等対策に係る技術的援助等実施要綱に基づき適正に執行しなければならない。

令和 年度 相続人調査等補助制度 補助金交付内容変更承認申請書
土地所有者等補助制度

神戸市長 宛 令和 年 月 日

(〒 -)

申請者等住所
氏名
電話

令和 年 月 日付 第 号で交付決定の通知を受けた標記補助金について、変更交付を受けたいので、空家空地等対策に係る技術的援助等実施要綱（第14条、第64条）の規定に基づき、下記のとおり申請します。

記

1 補助金を受けようとする建築物の所在地、構造

所在地：

構造：

2 変更を必要とする理由

3 補助事業の実施予定日

令和 年 月 日～令和 年 月 日（当初）

令和 年 月 日～令和 年 月 日（変更後）

4 補助金変更交付申請額

当初交付決定額 円

変更交付申請額 円

差引増減額 円

※添付関係書類はすべて補助交付申請の様式を準用する。なお、変更にかかる部分の書類のみ添付すること。

令和 年度 相続人調査等補助制度
補助金交付決定変更通知書
土地所有者等補助制度

(公 印 省 略)
第 号
令和 年 月 日

様

神戸市長

令和 年 月 日付交付変更申請のあった標記補助金について、空家空地等対策に係る技術的援助等実施要綱（第14条、第64条）の規定に基づき、下記のとおり交付の変更を決定したので通知します。

記

1. この補助金の対象となる事業及びその内容は、令和 年 月 日付交付変更承認申請書のとおりとする。

2. この事業の補助金の額は、次のとおりとする。

当初交付決定額	円
変更交付決定額	円
差引交付決定額	円

3. 交付の条件は、次のとおりとする。

(1) 次の各号のいずれかに該当する場合は、あらかじめ市長の承認を受けなければならない。

ア この事業の内容を変更する場合

イ この事業を中止し、又は変更する場合

(2) この事業が令和 年 月 日までに完了しない場合、又はこの事業の遂行が困難になった場合は、速やかに市長に報告してその指示を受けなければならない。

(3) この事業の執行にあたっては、空家空地等対策に係る技術的援助等実施要綱に基づき適正に執行しなければならない。

相続人調査等補助制度
令和 年度 補助事業中止（廃止）承認申請書
土地所有者等補助制度

令和 年 月 日

神戸市長 宛

(〒 ー)

申請者等住所

氏名

電話

令和 年 月 日付 第 号で交付決定の通知を受けた標記補助金について、
下記により当該事業を中止（廃止）したいので、空家空地等対策に係る技術的援助等実施要綱（第
14条、第64条）の規定に基づき、関係書類を添えて申請します。

記

1 中止（廃止）を必要とする理由

2 添付書類

補助金交付決定通知書の写し

令和 年度 相続人調査等補助制度 補助事業中止（廃止）承認通知書
土地所有者等補助制度

(公 印 省 略)
第 号
令和 年 月 日

様

神戸市長

令和 年 月 日付で補助事業中止（廃止）承認申請のあった下記事業について、空家空地等対策に係る技術的援助等実施要綱（第14条、第64条）の規定に基づき、中止（廃止）を決定したので通知します。

記

1. 当該事業： 第 号交付決定通知書にかかる事業

令和 年度 相続人調査等補助制度
補助金交付決定取消通知書
土地所有者等補助制度

(公 印 省 略)
第 号
令和 年 月 日

様

神戸市長

令和 年 月 日付 第 号で通知した標記補助金の交付決定について、空家空地等対策に係る技術的援助等実施要綱（第15条、第65条）に基づき、下記のとおり交付を取り消したので通知します。

記

- この補助金の取消対象となる事業及びその内容は、令和 年 月 日付 第 号補助金交付決定通知書のとおりとする。
- 取消す事業の補助金の額は、次のとおりとする。
補 助 金 の 額 金 円
- 取消の理由

令和 年度 相続人調査等補助制度 補助事業完了実績報告書
土地所有者等補助制度

令和 年 月 日

神戸市長 宛

(〒 -)

申請者等住所

氏名

電話

令和 年 月 日付 第 号で補助金の交付決定(変更)を受けた標記事業が完了したので、空家空地等対策に係る技術的援助等実施要綱(第16条、第66条)の規定に基づき、関係書類を添え下記のとおり報告します。

記

1 補助金を受けようとする建築物の所在地、構造

所在地:

構造:

2 補助金の交付決定額

円

3 補助事業の実施期間

自 令和 年 月 日

至 令和 年 月 日

4 添付書類

契約書の写し(相続人調査等補助制度の場合のみ)

相続人調査等の成果物のうち相続人と被相続人との関係がわかる書類の写しその他
相続人調査等の概要がわかる書類の写し(相続人調査等補助制度の場合のみ)

財産管理人選任申立等の成果物(土地所有者等補助制度の場合のみ)

領収書又はそれに代わる証明の写し

解体除却後の写真

その他必要書類()

令和 年度 相続人調査等補助制度
土地所有者等補助制度 補助金の額の確定通知書

(公 印 省 略)
第 号
令和 年 月 日

様

神戸市長

令和 年 月 日付完了実績報告のあった標記補助金については、空家空地等対策に係る技術的援助等実施要綱(第17条、第67条)の規定に基づき、下記のとおり確定したので通知します。

記

- | | | |
|-------------|---|---|
| 1. 交付決定補助金額 | 金 | 円 |
| 2. 確定補助金額 | 金 | 円 |

相続人調査等補助制度
令和 年度 補助金交付請求書
土地所有者等補助制度

令和 年 月 日

神戸市長 宛

(〒 -)

申請者等住所

氏 名

電 話

令和 年 月 日付 第 号で (交付決定・額の確定通知) を受けた標記補助金を空家空地等対策に係る技術的援助等実施要綱 (第 18 条、第 68 条) の規定に基づき、関係書類を添えて請求します。

記

1 補助金請求金額 円

2 確定補助金額 円

3 振込先口座

金融機関名		銀行	支店
金融機関コード	支店コード		
預金種目	1. 普通 2. 当座 3. その他()		
口座番号			
(フリガナ) 口座名義			

(注) 口座名義は、申請者等と同一の名義であること。

令和 年度 相続人調査等補助制度
土地所有者等補助制度 補助金返還命令書

(公 印 省 略)
第 号
令和 年 月 日

様

神戸市長

令和 年 月 日付 第 号で補助金の (交付決定・額を確定) した標記補助金については、空家空地等対策に係る技術的援助等実施要綱 (第 19 条、第 69 条) の規定に基づき、下記のとおり返還を命ずる。

記

1 返 還 金 額 金 円

2 返 還 期 日 令和 年 月 日

令和 年度 剪定伐採等補助制度 補助金交付申請書

令和 年 月 日

神戸市長 宛

(〒 -)

申請者等住所

氏名

電話

標記補助金の交付を受けたいので、空家空地等対策に係る技術的援助等実施要綱（第25条）の規定により、関係書類を添えて下記のとおり申請します。

記

- 1 補助金を受けようとする立木竹又は雑草の存する敷地の所在地
所在地：
- 2 補助事業の実施予定日 令和 年 月 日～ 令和 年 月 日
- 3 交付申請額 円
- 4 添付書類：土地の登記事項証明書（3か月以内のもの）
建物の登記事項証明書（3か月以内のもの）
現況写真（剪定伐採等を行う立木竹等を明示すること。2か月以内のもの）
付近見取図 作業計画書（作業内容がわかる図面等）
見積書の写し（内訳書を含む） 所得証明書
その他必要書類（ ）
- 5 その他

私は要綱第3条に規定する暴力団、暴力団員又は暴力団若しくは暴力団員と密接な関係を有する者でないことを申し添えます。

※本制度を過去に利用したことがある場合は、当該年度の翌年度から5年間は本制度を利用できません。

補助対象の空家空地等の改善前、改善後の写真等を、市が事業報告や普及啓発活動等に活用することを承諾します。

令和 年度 応急的危険回避措置補助制度 補助金交付申請書

令和 年 月 日

神戸市長 宛

(〒 -)

申請者等住所

氏名

電話

標記補助金の交付を受けたいので、空家空地等対策に係る技術的援助等実施要綱（第37条）の規定により、関係書類を添えて下記のとおり申請します。

記

1 補助金を受けようとする建築物の所在地、構造

所在地：

構造：

2 補助事業の実施予定日 令和 年 月 日～ 令和 年 月 日

3 交付申請額 円

4 添付書類：□建物の登記事項証明書（3か月以内のもの）

□付近見取図 □配置図

□外観写真（応急的危険回避措置を行う箇所を明示すること。2か月以内のもの）

□見積書の写し（内訳書を含む） □所得証明書

□その他必要書類（ ）

5 その他

私は要綱第3条に規定する暴力団、暴力団員又は暴力団若しくは暴力団員と密接な関係を有する者でないことを申し添えます。

□補助対象の空家空地等の改善前、改善後の写真等を、市が事業報告や普及啓発活動等に活用することを承諾します。

令和 年度 解体除却等補助制度 補助金交付申請書

令和 年 月 日

神戸市長 宛

(〒 -)

申請者等住所

氏名

電話

標記補助金の交付を受けたいので、空家空地等対策に係る技術的援助等実施要綱（第49条）の規定により、関係書類を添えて下記のとおり申請します。

記

1 補助金を受けようとする建築物の所在地、構造

所在地：

構造：

2 補助事業の実施予定日 令和 年 月 日 ～ 令和 年 月 日

3 交付申請額 円

4 添付書類：□建物の登記事項証明書（3か月以内のもの）

□付近見取図 □配置図 □外観写真（2か月以内のもの）

□見積書の写し（内訳書を含む） □所得証明書

□建設業許可証等の写し

□その他必要書類（ ）

5 その他

私は要綱第3条に規定する暴力団、暴力団員又は暴力団若しくは暴力団員と密接な関係を有する者でないことを申し添えます。

※応急的危険回避措置補助制度を利用した場合は、解体除却補助制度の交付額からその交付額分を減じます。

□補助対象の空家空地等の改善前、改善後の写真等を、市が事業報告や普及啓発活動等に活用することを承諾します。

令和 年度 剪定伐採等補助制度
応急的危険回避措置補助制度
解体除却等補助制度
剪定伐採等補助制度 (越境型) 補助金交付決定通知書

(公 印 省 略)
第 号
令和 年 月 日

様

神戸市長

令和 年 月 日付交付申請のあった標記補助金について、空家空地等対策に係る技術的援助等実施要綱 (第 26 条、第 38 条、第 50 条、第 85 条) の規定に基づき、下記のとおり交付を決定したので通知します。

記

- この補助金の対象は、令和 年 月 日付交付申請書のとおりとする。
- この事業の補助金の額は、次のとおりとする。
補助金の額 金 円
- 交付の条件は、次のとおりとする。
 - この事業の執行にあたっては、空家空地等対策に係る技術的援助等実施要綱に基づき適正に執行しなければならない。
 - (1) のほか、補助事業等の実施に際してその内容等に変更等が生じた場合は、速やかに市長に報告するとともに、必要な手続きを行うこと。

令和 年度 剪定伐採等補助制度
応急的危険回避措置補助制度
解体除却等補助制度
剪定伐採等補助制度 (越境型) 補助金交付内容変更承認申請書

令和 年 月 日

神戸市長 宛

(〒 -)

申請者等住所
氏名
電話

令和 年 月 日付 第 号で交付決定の通知を受けた標記補助金について、変更交付を受けたいので、空家空地等対策に係る技術的援助等実施要綱(第27条、第39条、第51条、第86条)の規定に基づき、下記のとおり申請します。

記

1 補助金を受けようとする建築物の所在地、構造
所在地：
構 造：

2 変更を必要とする理由

3 補助事業の実施予定日

令和 年 月 日～令和 年 月 日 (当初)

令和 年 月 日～令和 年 月 日 (変更後)

4 補助金交付変更申請額

当初交付決定額 円

変更交付申請額 円

差引増減額 円

※添付関係書類はすべて補助交付申請の様式を準用する。なお、変更にかかる部分の書類のみ添付すること。

令和 年度 剪定伐採等補助制度
応急的危険回避措置補助制度
解体除却等補助制度
剪定伐採等補助制度 (越境型) 補助金交付決定変更通知書

(公 印 省 略)
第 号
令和 年 月 日

様

神戸市長

令和 年 月 日付交付変更申請のあった標記補助金について、空家空地等対策に係る技術的援助等実施要綱(第27条、第39条、第51条、第86条)の規定に基づき、下記のとおり交付の変更を決定したので通知します。

記

1. この補助金の対象となる事業及びその内容は、令和 年 月 日付交付変更承認申請書のとおりとする。

2. この事業の補助金の額は、次のとおりとする。

当初交付決定額	円
変更交付決定額	円
差引交付決定額	円

3. 交付の条件は、次のとおりとする。

(1) この事業の執行にあたっては、空家空地等対策に係る技術的援助等実施要綱に基づき適正に執行しなければならない。

(2) (1)のほか、補助事業等の実施に際してその内容等に変更等が生じた場合は、速やかに市長に報告するとともに、必要な手続きを行うこと。

令和 年度 剪定伐採等補助制度
応急的危険回避措置補助制度
解体除却等補助制度
剪定伐採等補助制度 (越境型) 補助事業中止 (廃止) 承認申請書

令和 年 月 日

神戸市長 宛

(〒 -)

申請者等住所

氏名

電話

令和 年 月 日付 第 号で交付決定の通知を受けた標記補助金について、
下記により当該事業を中止 (廃止) したいので、空家空地等対策に係る技術的援助等実施要綱 (第
27条、第39条、第51条、第86条) の規定に基づき、関係書類を添えて申請します。

記

1 中止 (廃止) を必要とする理由

2 添付書類

補助金交付決定通知書の写し

様式第21号 (第27条、第39条、第51条、第86条 関連)

令和 年度 剪定伐採等補助制度
応急的危険回避措置補助制度
解体除却等補助制度
剪定伐採等補助制度 (越境型) 補助事業中止 (廃止) 承認通知書

(公 印 省 略)

第 号

令和 年 月 日

様

神戸市長

令和 年 月 日付で補助事業中止 (廃止) 承認申請のあった下記事業について、空家空地等対策に係る技術的援助等実施要綱 (第 27 条、第 39 条、第 51 条、第 86 条) の規定に基づき、中止 (廃止) を決定したので通知します。

記

1. 当該事業 : 第 号交付決定通知書にかかる事業

令和 年度 剪定伐採等補助制度
応急的危険回避措置補助制度
解体除却等補助制度
剪定伐採等補助制度 (越境型) 補助金交付決定取消通知書

(公 印 省 略)
第 号
令和 年 月 日

様

神戸市長

令和 年 月 日付 第 号で通知した標記補助金の交付決定について、空家空地等対策に係る技術的援助等実施要綱 (第 28 条、第 40 条、第 52 条、第 87 条) に基づき、下記のとおり交付を取り消したので通知します。

記

- この補助金の取消対象となる事業及びその内容は、令和 年 月 日付 第 号補助金交付決定通知書のとおりとする。
- 取消す事業の補助金の額は、次のとおりとする。
補 助 金 の 額 金 円
- 取消の理由

令和 年度 剪定伐採等補助制度
応急的危険回避措置補助制度
解体除却等補助制度
剪定伐採等補助制度 (越境型) 補助事業完了実績報告書

令和 年 月 日

神戸市長 宛

(〒 -)

申請者等住所

氏名

電話

令和 年 月 日付 第 号で補助金の交付決定(変更)を受けた標記事業が完了したので、空家空地等対策に係る技術的援助等実施要綱(第29条、第41条、第53条、第88条)の規定に基づき、関係書類を添え下記のとおり報告します。

記

1 補助金を受けようとする建築物の所在地、構造

所在地:

構造:

2 補助金の交付決定額

円

3 補助事業の実施期間

自 令和 年 月 日

至 令和 年 月 日

4 添付書類

契約書の写し

領収書又はそれに代わる証明の写し

工事施工後の写真

その他必要書類 ()

令和 年度 剪定伐採等補助制度
応急的危険回避措置補助制度
解体除却等補助制度
剪定伐採等補助制度 (越境型) 補助金の額の確定通知書

(公 印 省 略)
第 号
令和 年 月 日

様

神戸市長

令和 年 月 日付完了実績報告のあった標記補助金については、空家空地等対策に係る技術的援助等実施要綱 (第 30 条、第 42 条、第 54 条、第 89 条) の規定に基づき、下記のとおり確定したので通知します。

記

- | | | |
|-------------|---|---|
| 1. 交付決定補助金額 | 金 | 円 |
| 2. 確定補助金額 | 金 | 円 |

令和 年度 剪定伐採等補助制度
応急的危険回避措置補助制度
解体除却等補助制度
剪定伐採等補助制度 (越境型) 補助金交付請求書

令和 年 月 日

神戸市長 宛

(〒 -)

申請者等住所
氏 名
電 話

令和 年 月 日付 第 号で (交付決定・額の確定通知) を受けた標記補助金を空家空地等対策に係る技術的援助等実施要綱 (第 31 条、第 43 条、第 55 条、第 90 条) の規定に基づき、関係書類を添えて請求します。

記

- 1 補助金請求金額 円
2 確定補助金額 円
3 振込先口座

金融機関名		銀行	支店
金融機関コード	支店コード		
預金種目	1. 普通 2. 当座 3. その他()		
口座番号			
(フリガナ) 口座名義			

(注) 口座名義は、申請者等と同一の名義であること。

様式第 26 号 (第 32 条、第 44 条、第 56 条、第 91 条 関連)

令和 年度 剪定伐採等補助制度
応急的危険回避措置補助制度
解体除却等補助制度
剪定伐採等補助制度 (越境型) 補助金返還命令書

(公 印 省 略)
第 号
令和 年 月 日

様

神戸市長

令和 年 月 日付 第 号で補助金の (交付決定・額を確定) した標記補助金については、空家空地等対策に係る技術的援助等実施要綱 (第 32 条、第 44 条、第 56 条、第 91 条) の規定に基づき、下記のとおり返還を命ずる。

記

1 返 還 金 額 金 円

2 返 還 期 日 令和 年 月 日

受 領 委 任 状

令和 年 月 日

神戸市長 宛

(〒 -)

委任者住所

氏名

印

電話

私は下記のとおり受任者を代理人と定め、補助金の受領を委任します。

記

1. 受任者

住 所	(〒 -)	印
団 体 名		
代 表 者 名		

2. 補助事業等の名称

3. 建物等の所在地

4. 受領委任額

金 _____ 円

5. 振込先口座

金融機関名		銀行	支店
金融機関コード	支店コード		
預 金 種 目	1. 普通 2. 当座 3. その他()		
口 座 番 号			
(フリガナ) 口 座 名 義			

(注) 口座名義は、受任者名と同一の名義であること。

令和 年度 剪定伐採等補助制度 (越境型) 補助金交付申請書

令和 年 月 日

神戸市長 宛

(〒 -)

申請者等住所

氏名

電話

標記補助金の交付を受けたいので、空家空地等対策に係る技術的援助等実施要綱 (第84条) の規定により、関係書類を添えて下記のとおり申請します。

記

1 補助金を受けようとする立木竹の存する敷地の所在地

所在地:

2 補助事業の実施予定日 令和 年 月 日 ~ 令和 年 月 日

3 交付申請額 円

4 添付書類: 申請者等の土地の登記事項証明書 (3か月以内のもの)

現況写真 (剪定伐採等を行う立木竹等を明示すること。2か月以内のもの)

付近見取図 作業計画書 (作業内容がわかる図面等)

見積書の写し (内訳書を含む)

その他必要書類 ()

5 その他

私は要綱第3条に規定する暴力団、暴力団員又は暴力団若しくは暴力団員と密接な関係を有する者でないことを申し添えます。

また、当該土地の所有者を調べましたが、その所有者又はその所在はわかりませんでした。

※本制度を過去に利用したことがある場合は、当該年度の翌年度から5年間は本制度を利用できません。

補助対象の空家空地等の改善前、改善後の写真等を、市が事業報告や普及啓発活動等に活用することを承諾します。